



燕市立燕東小学校 学校だより

令和8年6月15日

No. 3

↓学校ホームページ

あすなろ



やさしい社会の種

校長 鈴木 華奈子

中庭から「先生、見て!」と元気な声。

駆け寄る子の指の上には、黒に黄色や赤色の模様があるきれいな幼虫がのっています。その子は幼虫を愛おしそうに見つめ「この子、教室に連れて行って、虫かごで飼いたい。」「大きくなってどんな虫になるか見てみたい!」と言います。

「どうしたら元気に育つだろうね。」と尋ねました。

「え〜? 虫かごでさ・・・。」

「この子、何を食べるんだろうね? どんなところにいた?」

「あ、分かった!」「あのね。こっち。ここにいたんだよ!この葉っぱの上!」

「この草と土と一緒に虫かごにいれよう。この子、こういうのが好きだと思う。」



小さな生き物を見つめ、考えることで「自分とは違う世界に生きる存在」であることに気づき、その命・存在を大切にしようという思いが高まっているように見えました。(※鈴木俊貴氏(東大准教授:シジウカラが20以上の単語を組み合わせ文を作り鳴いていることを世界で初めて解明)は、こうした自然観察も「やさしさ」が育つ一つだと話しています。自分自身の尺度を捨て、相手の都合や意図を理解しようとする姿勢が、多様性を認める心の土台となるからです。)

先日の児童朝会では、「みんなが安心して気持ちよく過ごせるクラスになるために、今年私たちは・・・」とたくさんの取組が発表されました。

どれも、「人はそれぞれ違う。普通はとか、自分と同じとかって決めつけず、その人のことをよく見て、考えたい。」「違うからこそ見えるその人の素敵などところを見つけたい。」という思いが伝わってきました。



東小児童会の名前の「あすなろ」の樹は、仲間と支えあい、ゆっくりと大きな空に向かい成長していきます。この支えあいに欠かせないのが、自分とは異なる価値観をもつ他者を知ろうする「見る・聞く・考える」力だと言われています。

児童朝会の最後に、互いに「楽しかった。ありがとう。」を伝えあった子どもたちは、「互いを大切に思いあうことで全員がハッピーになれる関係や社会」を体現しているように思えました。

「明日はヒノキになろう」と願うあすなろの樹のように、子どもたち一人ひとりが個性を輝かせながら、「見る・聞く・考える」を通じて他者の異なる価値観を尊重し、支えあって伸びていく。そんな「東っこ」たちのまなざしが、誰もが安心して過ごせる「やさしい社会」の種となっていくのだと思います。

運動会、ご声援ありがとうございました！

体育主任

5月23日（土）に令和8年度燕東小学校運動会が行われました。前日からの予報では天候が心配されましたが、当日は東っ子の熱いパワーで天気を味方につけ、絶好の青空となりました。今年度は「心を一つに！赤白伝説の運動会！」というスローガンのもと、赤組も白組も心を一つに力いっぱいがんばりました。

運動会の華である応援合戦では、これまで先頭に立って引っ張ってきた応援リーダーを中心に、白熱したやり取りが繰り広げられました。グラウンド全体に響き渡る大きな声と、息のそろった振り付けは、グラウンドに大きな感動を生みました。また、各学年の競技や表現でも、自分たちの目標に向かって一生懸命ベストを尽くそうとする東っ子の姿がとても輝いていました。ゴールを目指して全力で駆け抜ける真剣な表情、一つのバトンを仲間へとつなぐ姿、そして運動会の円滑な進行をテキパキと支えてくれた高学年の頼もしいリーダーシップ。どこを切り取っても、子どもたちの主体性と確かな成長が感じられる場面ばかりでした。今年度は優勝が白組、応援賞が赤組でした。勝敗を超えて全力を尽くし、仲間との絆を深めたこの経験は、子どもたちにとって大きな自信となったはずです。

最後になりますが、当日まで子どもたちの体調管理や温かい励ましで一番近くから支えてくださった保護者の皆様、そして当日のあたたかなご声援とご協力、片付けのサポートをいただきました地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

